



第14回年会「エピジェネティクスがつなぐ5つの輪」開催

第14回日本エピジェネティクス研究会年会在、2021年3月30日～31日の2日間、**オンライン**で開催されました。新型コロナウイルスによる影響で、本来予定していた2020年5月には開催できず延期になり、また直前まで名古屋での現地開催を模索していましたが、最終的にオンラインでの開催となりました。研究会をオンラインで開催するのは初めての試みでしたが、3つの**新学術領域研究**との共催として、また4つの**公益財団法人**、30社の**企業**による協賛を受け、400名を超える方に参加していただき、とても盛況な研究会となりました。研究会では、一般講演11題、ショートトーク7題、ポスター発表92題、さらに、奨励賞受賞者5名による受賞講演、次回の年会長である**伊藤隆司**先生による講演が行われました。

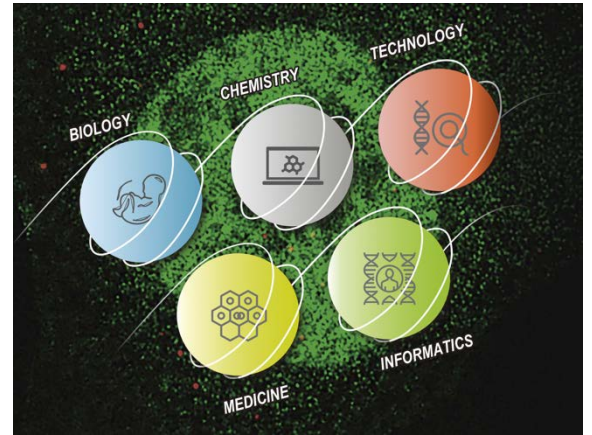


図1. 本年会のシンボルイラスト

エピジェネティクスの研究は、生物学から創薬化学、医学などの応用研究、そして最近ではインフォマティクスと融合するなど、研究分野として大きく拡がりつつあります。本年会では、**生物学 (Biology)**、**医学 (Medicine)**、**化学 (Chemistry)**、**技術 (Technology)**、**インフォマティクス (Informatics)** という5つのトピックをつなげた輪に見立て (図1参照)、エピジェネティクス研究船体を俯瞰するという試みの中で企画・開催されました。ウェビナー形式での講演ではQ&Aによる議論が熱心に行われ、またポスターでは事前の質疑も活用して議論が盛り上がり、直接対面で議論できないというマイナス面を払拭し、成功裏に終わることができました。

講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会の運営をしていただいた組織委員会、近藤研究室の皆様、大変ありがとうございました。

総会が開かれました

- ▶ 3月31日に総会が行われました (幹事会は昨年5月27日に開催されました)。
- ▶ 第15回の年会は、**伊藤隆司**幹事 (九州大学) を年会長として、**2022年5月19日、20日**に九州大学の**医学部百年講堂**で開催される予定です。詳細は後日お知らせいたします。
- ▶ 第16回年の年会長は、次回の幹事会 (2021年6月4日) で選出される予定です。



Zoomでの総会の様子



ランチョンセミナーのために全国へ配送されたお弁当



奨励賞受賞者の表彰が行われました

本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から岸雄介さん（東大）、松田泰斗さん（九大）、石内崇士さん（九大）、岡部篤史（千葉大）さん、白根健次郎さん（ブリティッシュコロンビア大／九大）の5名が選ばれ、受賞者講演の前に中尾光善代表幹事による表彰が行われました。以下、それぞれの受賞者からいただいたコメントです。おめでとうございます！！



この度は奨励賞を授賞することができて大変光栄に存じます。エピジェネティクスを15年間研究してきましたが、今でもその新しい面白さに気づきながら研究しています。この賞を契機にさらにエピジェネティクスの重要性・可能性を明らかにしていきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

岸 雄介（東京大学大学院薬学系研究科 分子生物学教室・後藤研究室）



この度はエピジェネティクス研究会奨励賞を授与していただきありがとうございます。対象研究について、研究を展開する機会を与えて下さった九州大学大学院医学研究院の中島欽一教授、共同研究者の先生方、一緒に研究を進めてきた中島研の学生のみなさんには、この場をお借りして心より感謝申し上げます。皆様から賞を与えて良かったと感じていただけるように、今まで以上に研究に励み、さらに面白い成果をエピジェネティクス研究会で発表できるようにしたいです。

松田 泰斗（九州大学大学院医学研究院 応用幹細胞医科学講座）



今回、奨励賞を頂戴し大変光栄に思います。エピジェネティクス研究に足を踏み入れたのはついこの間のように感じますが、この賞をきっかけにエピジェネティクスに少しは貢献できたのかなと実感できるようになりました。これからも発生とエピジェネティクスをつなぐ仕事を発信し、国内のエピジェネティクス研究（会）を盛り上げていければと思います。この度は本当にありがとうございました。

石内 崇士（九州大学 生体防御医学研究所 エピゲノム制御学分野）



この度は令和3年度日本エピジェネティクス研究会奨励賞という荣誉ある賞を賜り、代表幹事の中尾先生始め、選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。今回、癌ウイルスであるEpstein-Barr ウイルス (EBV) がホストゲノムと直接相互作用することによって、EBV 陽性胃癌に特徴的なクロマチン構造異常を誘導するという、これまでになくクロマチン異常誘導機構を発見しました。本研究にご協力いただいた先生方に深く御礼申し上げますと共に、この度の受賞を励みとし、更に研究に邁進して参ります。

岡部 篤史（千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学）



この度は、エピジェネティクス研究会奨励賞をいただき大変光栄です。これまで、ご指導下さった諸先生方、並びにご支援下さった方々に心より御礼申し上げます。私は佐々木裕之先生の研究室に参加し、エピジェネティクス研究を開始しました。そして初めて参加したのがエピジェネティクス研究会で、この度、奨励賞をいただくことができ大変嬉しく思っております。今後は、エピゲノムを含めた生殖細胞の雌雄差の形成メカニズムを明らかにしていきたいと考えております。最後になりましたが、賞等選考委員の先生方、年会オーガナイザーの先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

白根 健次郎（九州大学医学研究院ヒトゲノム幹細胞医学）



第14回エピジェネティクス研究会年會を終えて



第14回年會長 近藤 豊

第14回エピジェネティクス研究会年會は無事終了いたしました。400名を超える参加登録者の方々にご参加いただき心より御礼申し上げます。今回の年會では、「エピジェネティクスがつなぐ5つの輪」をテーマに、これまでの年會でお話をお聞きしたことがない、エピジェネティクスに関連する様々な領域の若手研究者の方々を中心にご講演いただきました。さらに吉田稔先生による特別講演では、エピジェネティクス創薬について基礎から応用まで大変魅力的にお話しいただき、視聴者の方々もその科学の美しさに惹きつけられたのではないかと思います。

今回は年會がはじまって以来のオンライン開催となりました。思いついたことを気軽に質問し議論できる環境の尊さのみならず、不自由な状況だからこそより強く感じられることも少なくなかったのではないかと思います。ポスター発表を含めてエピジェネティクスに関連する基盤的な内容から、これまでの概念を刷新するような新しい発見まで幅広く皆様に御発表いただき、そこに予想以上の多くの質問や議論が生まれたことは、この分野のこれまでの成熟とこれからの発展を予見するようでした。

最後に、協賛・共催にご同意いただきました企業・財団・学術団体の方々、組織委員、座長の先生方、そして本年會の運営にご尽力いただいた皆様方に深く感謝いたします。来年5月には年會長の伊藤隆司先生のもと、博多で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年會に関するご意見・ご感想もよろしくお願ひいたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
木下哲 (tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp)
大川恭行 (yohkawa@bioreg.kyushu-u.ac.jp)
近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

群馬大学 生体調節研究所
生体情報ゲノムリソースセンター
ゲノム科学リソース分野内
庶務担当幹事：畑田出穂，担当：岩田浩美
住所：〒371-8512 群馬県前橋市昭和町3-39-15
TEL: 027-220-8111
E-mail: jse-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp